

記憶で紡ぐ千葉市の歴史

# 千葉市オーラルヒストリー

大賀ハス ～南定雄氏インタビュー～ 編



千葉市

# 神秘さに魅せられ半世紀—— 大賀ハスの系統保存に務める

蓮文化研究会 元会長

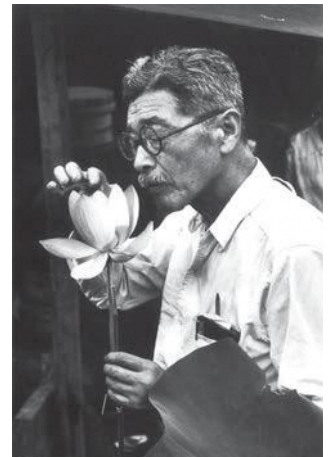
大賀ハスふるさとの会 顧問 南 定雄氏

——南さんと大賀ハスとの関わりのきっかけを教えてください。

鹿児島県の農業高校を卒業して、昭和39（1964）年の4月  
東京大学農学部にて技術職員として就職しました。来たと同時に大



南 定雄氏



昭和27年に開花した大賀ハスと  
大賀一郎博士（提供/南定雄氏）

の触れ合いがあったわけです。それまで、大賀ハスのことは全く  
知りませんでした。

そもそも、昭和26（1951）年に大賀一郎先生が厚生農場で  
発掘した大賀ハスの種が発芽して、分根されて農場に戻ってきた  
んですけれども、そのときは近くの畑町にいらっしゃった伊原茂  
さんのところで咲いたんです。つまり、発掘されてから13年間、  
東大グラウンドの中に大賀ハスはなかったわけです。そこで、発  
祥の地に植えるべきだと当時の関係者の方が思われたんですね。  
たまたま東京オリンピックのクロスカントリーが総合運動場で行  
われるということで、世界の方々に記念碑とハスの花を見てもら  
おうと地元が盛り上がり始まったと、後で聞きました。

種蓮根は、千葉公園と大賀先生のところから持ち込まれました。  
昔のことなのであまり覚えていませんが、結構池が広がったので、  
20〜30本あったんじゃないかと思っています。私と先輩の技官と二人  
で植えました。

——大賀先生のことはご存じでしたか？

田舎にいたところは存じ上げませんでしたが、記念碑を作るということで3〜4回、ご自宅のある府中市から農場にいらっしやいました。体が大きくて、写真の通りの方でしたね。私はまだ来ただばかりで、直接ハスについて先生にお聞きすることはできないけれども、傍に座らせていただいて、先輩方と話をされている様子を伺っていました。

——大賀ハスが咲いたとき、どのようなお気持ちでしたか。

種蓮根は3月の終わりくらいに植えたと思います。池なので特に手入れをする必要はなく、7月初めくらいに咲きました。40



上／昭和39年に完成した大賀ハス発掘碑（提供／南定雄氏）

下／大賀ハス発掘碑除幕式（写真左が大賀博士）  
（提供／大賀ハスふるさとの会）



東大グラウンド周辺の路上から人々がオリンピックを見学している様子（昭和39年10月15日『花園の定点撮影』より）

50年くらい前はまだまだこんなに暖かくないから、開花が遅かったんです。初めて植えた場所なのに、順調に育ってよく咲きましたね。いまの千葉公園と同じくらいにいっぱい咲いていました。

私はこのときに初めて大賀ハスを見たんですが、素晴らしいなと思いました。神秘的な花だということは本で読んで知っていましたけれども、実際に見て本当に感動しましたね。それから何年かは咲いていたはずですが。

オリンピックのときは、それはすごかったですね。見たい方はどうぞということで山刈りをしました。クロスカントリーだから走って回るでしょ。私もはグラウンドの中で見せてもらったけど、入れない人はこの山の縁から見ている。すごい数の人が来たと思います。壊れたアーチとか、オリンピックの名残が何十年もありましたね。

——南さんは、その後もずっと東大で大賀ハスの管理をなさっているのですか。

はい。本職では学生の実習を担当していましたが、一番若手だった

たのでハスの管理もずっとやっていました。記念碑が完成した1年後の昭和40（1965）年6月に大賀先生が亡くなって、翌年の春先から、先生が収集されていた大賀ハスや日本古来の和蓮といった品種を、神代植物公園、東大緑地植物実験所（当時は園芸実験所）、府中公園の3カ所で、保存のために分けて栽培するようにしたんです。最初は20品種くらいでした。当時は国内でもあまりハスの交流がなくて、どこにどんなハスがあるかも全然分かっていなかったんです。

それから本格的にハスの収集と栽培と始めました。まず、先輩と私、あと女性も含めて何人かで、実験所にビニールで蓮池を作りました。でも、根がビニールを突き破ってしまうことが分かったので、手作りじゃだめだということでコンクリートの栽培池を大学に作っていただきました。まだ国交がない時代に、ずいぶん中国にも行って集めてきたんですよ。最初は、周りは皆ハスに関心がなくて、せっかく集めても何をやっているんだみたいな感じでしたね。20歳くらいから始めて、もう75歳ですから、半世紀以上もハスばかりやっています（笑）。

——いま大賀ハスはいろいろなところに分根されていますが、そういうことにも携わっていらっしゃるのですか。

そうですね。大賀ハスは交配しないよう一般の方には分けず、公共施設を中心にお分けしています。自分たちだけで持っていた

のではだめで、多くの人に見ていただかなければ広がらないんですよ。ここから全国に持って行ったり、持って行った先からいただいたり、両方ありますね。大賀先生も新潟とかあちこちに持って行かれていました。でも、交配が進んでしまったところが何カ所かあります。府中市もそうでしたね。市民から、これは大賀先生のハスとは違うんじゃないかというクレームがずいぶん来て、ここの緑地植物実験所から分けてほしいということになり、差し上げました。品種保存、系統保存が大事ですね。

千葉市でも大賀ハスを系統保存しようということで、その指導を行っています。また、平成30（2018）年から「ハス守りさん」を育てる講習も行っていきます。毎年10人を目安にしています。以前から、そういう活動をして市民の方々がハスに関心を持ってくれるようになるかと思っただけだったので、できるだけ協力しています。ただお祭りをやるだけじゃなくて、市民の中に大賀ハスについて詳しい人がいないとだめですね。

——大賀ハスふるさとの会の顧問もされていますね。この会は市民から立ち上がったのですか。

実験所ではハスの見本園を年に一度地域に開放して、「観蓮会」を開い



「観蓮会」の際に開かれた呈茶のイベント  
（『大賀ハス開花五十周年記念誌』より）

ていました。東大と協力してお茶室を作ったりしてね。しかし平成22（2010）年に、それまでは東大農場が検見川に来るということで進んでいた話が、急に逆転してこちらが田無市へ行くということになってしまったんです。せつかく今まで毎年2〜300種類もあるハスを見るのができていたのに、それが見られなくなる。大賀ハスは千葉市の花だし、それはおかしいんじゃないかということで、地域のために大賀ハスふるさとの会が立ち上がったんだと思います。

私は依頼を受けて、顧問としてハスの管理方法などを指導しています。見本園は、私が重機を持ってきて土の入れ替えを行っています。会のメンバーがごみ取りや植え替え、肥料やりなどを行っています。本当はもっと行政に援助していただいて、業者に手入れしてもらえるといいんですが。見本園では世界中のハスを栽培していて、ふるさとの会が毎年7月に一般開放を行っています。

——大賀ハスを栽培するポイントは何でしょうか。

大賀ハスの栽培には、二通りの考え方があります。一つは池や湖など自然体での栽培。琵琶湖の岸辺でも生育していますが、そういう場所では自然体ですね。難しいのは1000平米くらいの池や桶栽培です。定期的に植え替えをしなければ病気になったり枯れてしまったりします。花付きのいい品種を選んで植えると、毎年良く咲きます。その代わり植え替えをしてあげないといけな

いので費用がかかります。

千葉公園の大賀ハスの手入れの指導も、平成6（1994）年に蓮華亭ができてから行っています。ここは池を3つに分けて、3年に一回植え替えをします。ちゃんと管理をしているので、私が見る限り、日本で一番よく咲いています。

——先生にとって、大賀ハスの一番の魅力は何ですか。



新品種の「緑地美人」（提供/南定雄氏）

ピンクの大きな花が咲いたのを初めて見たときに感じた「神聖さ」ですね。私はそれまで生のハスを見たことはありませんでした。昔の人はほとんど見えないと思います。お寺にあるのはみんな金、銀紙で作られた造花のようなハスじゃないですか。あの時にハスに魅せられて、いまでは小型のハスを中国から100種類くらい持ってきています。

品種改良にも取り組んでいて、「緑地美人」は平成23（2011）年に大学で初めて



商標登録した品種です。薄いピンク色の花が咲きます。その他にも、登録はしていませんがたくさんあります。

ハスは種類によつて香りも違います。葉っぱから香りが出るんですよ。大賀ハスの香水を売り出したのも私のアイデアなんです。東大で初めてのハスの香水。資生堂さんと協力してね。今でも売っていますよ。

——今後の抱負を教えてください。

江戸時代に園芸ブームがあつて、アヤメとか日本古来の品種が人気になりました。ハスもその中の一つだったと思います。その後明治時代になるとブームが廃れて。ハスは仏教の花で不吉だとい



東京大学旧緑地植物実験所にあるハス見本園では、南さんと大賀ハスふるさとの会の手により約150種類のハスが栽培されている

いうことで、あまり家庭では植えられるいせんでした。でも、大賀先生が2000年も眠っていた古いハスの種を開花させたことで、皆さんの関心がハスに集まってきたわけですね。

発掘されて今年で70年なので、千葉市でも資料をたくさん集めていただきました。発掘されたときは3月の菜種梅雨の頃で、大変な作業だったそうです。

苦労しながら発掘がなされたということが、後で資料を集めてやっと分かったんです。発掘されたのは千葉市なんだけれども、みんなあまり関心がなかったのか、資料が少なかったんですね。先生が亡くなったときに府中市がみんな持つて行つたと、最後の弟子の方が言っていましたね。先生がせっかくこんなに苦労して大賀ハスを咲かせてつないでくださったので、大賀ハスだけじゃなくて、ハス全体の花としての位置づけをしていきたいですね。仏教の花と言われますが、きれいな花なんだということを伝えたいです。

品種を集め始めた最初は20くらいしかなかったのが、今はもう500種とか、中国の品種を入れると1000、それ以上あるかもしれません。毎年種を掛け合わせたり、種を蒔いたりして一生懸命品種改良をしていますから。品種の数では中国が一番ですね。その次が日本、その次が韓国かな。アメリカにも少し。宗教的には異なりますが、園芸に興味のある人がいますので。アメリカには黄色いハスがあつて、それと大賀ハスを交配してできたのが、大賀先生の弟子の阪本祐二先生が作った舞妃蓮です。前の天皇が皇太子のときにアメリカからその種をいただいできて、それを大賀先生が発芽させて、さらに阪本先生が大賀ハスと交配して誕生したので。

阪本先生のお子さんとはいまでも交流しています。これからもハスを通じて交流を続けていきたいと思っています。もうこんな歳だから時間がないかもしれませんが、そう思つてやっています。

千葉県オーラルヒストリー  
大賀ハス～南定雄氏インタビュー～編

---

発行／千葉市中央図書館

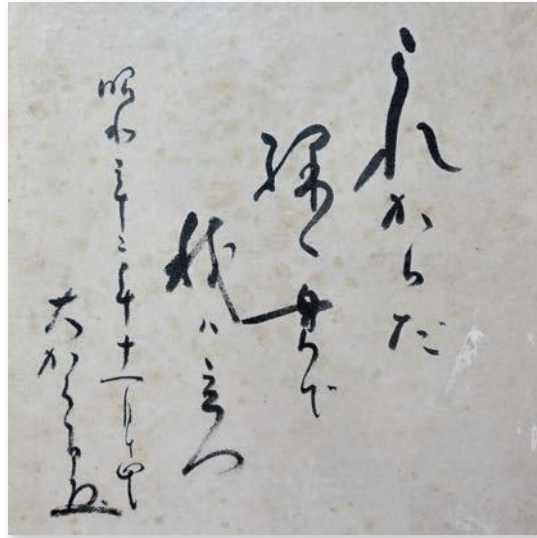
発行日／令和3年3月31日

取材日／令和3年3月5日

資料提供／南定雄氏、大賀ハスふるさとの会、手塚博禮氏『花園の定点撮影』、  
新井貞男氏『大賀ハス開花五十周年記念誌』、中西文明氏（表紙：大賀ハス、記念碑）



大賀ハスを蘇らせた大賀一郎博士  
(提供/大賀ハスふるさとの会)



大賀博士の直筆の色紙「これからだ 裸一貫で 我ハ立つ」  
(提供/大賀ハスふるさとの会)



大賀ハス発掘前の東大検見川厚生農場  
(提供/大賀ハスふるさとの会)



発掘地点明示碑の周りに集まる人々  
(『大賀ハス開花五十周年記念誌』より)



観蓮会で大賀ハスを撮影する人たち  
(『大賀ハス開花五十周年記念誌』より)